

「ふくいの教育振興推進会議」における主な意見

要 旨

(1) 計画全般に関して

- ① 「標準化」は日本の教育の特徴であり、底力とも言われるが、これからは「個別解」を作らないといけない。福井県の学力・体力はすでにトップクラスであるから、子どもの個性に合ったものを自由にやらせることが重要。
- ② 「ていねいな教育」の反対は、「おおらかな教育＝選択肢の多い教育」。完璧主義で丁寧にやり過ぎると、いじめや不登校が起きる。
- ③ 県内一律で対応しなければならない県の施策と、地域の特性を生かした市町の施策を精選しながら、ビルド&スクラップすること。
- ④ 計画内容が盛りだくさんだと学校現場が忙しくなる。目標を達成した項目はスクラップすること。

(2) 幼児教育に関して

- ① 自己調整能力や言語力の育成は、小中高校では遅い。幼児期から児童期の最初に読書体験を積み上げないと、質の高い読書はできない。
- ② 発信型の講座も大事だが、いろいろな専門性を持つ保護者を活用して、園を豊かにするという発想があるとよい。
- ③ 保育士や幼稚園教諭の資格を持った人材が、給与や待遇面で都会に流れており、人材不足が課題である。

(3) 高校教育に関して

- ① 新学習指導要領の柱は「カリキュラムマネジメント」である。小中学校でこれをやって欲しいとか、小中学校と重複する学習はやめるとか、十数年間の学びの連続の中での、大きなカリキュラムマネジメントが必要。
- ② 主権者教育や消費者教育の時間がないということだが、ひとつずつ切り分けずに、教育活動全体の中でどう関連付けるかを考えること。

(4) 読書活動に関して

- ① 各教科において、学校図書館を活用した授業を展開することが重要。
- ② 学校の一斉読書が他のものに置き換わっており、基礎力が弱くなっている。
- ③ ICT化が進み、社会全体が本を読まない、ものを考えなくていいように動いている。学び方・学ぶ力が身に付いたかを見ていくことが大事（読むだけではなく、辞書を引くこと。合目的なことしかやらなくなっている）。
- ④ 新聞を読む子どもは、文章の読解力・理解力が高い。リード文を読むことは、文章をまとめる力を養う訓練になる。書評を読めば、本に対する興味も沸く。
- ⑤ 問題文と設問が別ページになると理解力が落ちる。英語で興味の薄い経済に関する内容が取り上げられると平均点が下がる。新聞を読まないアウトプットのカも落ちる。その意味で、すべての教科の基本は国語力である。
- ⑥ 新聞は「気づきのメディア」と呼ばれ、関心を持たないニュースも目に入る。地元への愛着を育むきっかけになり、主権者教育や消費者教育にも役立つ。

(5) 英語教育に関して

- ① 英語教育を言語教育に限定しているところが問題であり、むしろコミュニケーション能力の育成が重要。
- ② 話す力をつけるには、相手に伝えたいという気持ちを育てることが大事。実際に英語を使う場所や機会をたくさん作ること。
- ③ 英語は道具に過ぎない。基本的な日本語力や論理的な思考力を高めないと意味がない。
- ④ 外国の文化や社会、歴史の違いを正しく理解するとともに、人として同じ共通項も多いということを理解できるような授業とすること。
- ⑤ 子どもの異文化に対する順応力は高いが、保護者はそうでない。親子で異文化を学ぶ場をつくり、国際理解を深めることも重要。
- ⑥ 越前市の小中学校には、ポルトガル語を母国語とする子どもが多数在籍している。日本語のわからない外国人児童生徒が、言葉や文化の壁につまずいて、日本に溶け込みにくい実態がある。日本語教育と母国語教育によるアイデンティティの確立が緊急の課題である。

(6) 教職員の資質向上に関して

- ① 福井県の教育は手厚く、子どもたちは受け身になりがち。そうした教育を受けた子どもは素直で優等生だが、個性がない。特徴ある生徒も認めてあげる。そのような時に、教員も特徴があった方がいい。
- ② 教員と地元企業が共通理解を図りながらキャリア教育を進めること。高校卒業生の離職率が高いと言われるが、教員はどんな企業で、何を作っているかも知らずに進路を指導しているのが実態である。
- ③ 子どもの変化、成長を学級通信などで保護者と共有できると教員もやる気が出る。福井県はそこを大事にしている。その特徴を生かしたイメージアップ戦略により、教職の魅力をうまく広報できるとよい。

(7) 学校現場の業務改善に関して

- ① 多くの学校では外部人材の活用に取り組んでいるが、その範囲が広がるほど教員の負担が増える部分もある。
- ② 教員の負担が大きい校種間異動を減らし、教員数を増やすべき。教員志望者が減り、産休育休の代替教員もなかなか見つからない。人材確保の工夫が必要である。地域の指導者や教員OBなど部活動指導員も人材がいない。
- ③ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）など民間の手法を学校に取り入れることと、現場の意見を聞くことが大事。組織マネジメントで学校をどう改善するかを考えること。
- ④ すべての教員に熱血教師として子どものために尽くすことを求めることは、これからの時代に合わない。決められた勤務時間の中でいかに働くかを学び、時間管理が上手な学校の好事例を紹介すること。
- ⑤ 時間管理や事務作業の効率化も大事だが、教職員のスキルを上げることで、質的に負担感を減らすことも必要。
- ⑥ 保護者から要求されるレベルが上がっており、学校としてどこまで対応するかをマニュアル等で具体的に示す必要がある。
- ⑦ 個人情報保護への配慮や部活動指導が負担になっている。個人情報の取り扱いについては、一律に規律を適用せずに、各学校の保護者ネットワークで特別なルールを作れないか。中学校や高校からネットワークを作ることは難しいので、幼児教育の段階から作れると先進的な事例となる。

- ⑧ 教員や保護者が本音で議論できる場がたくさん出てくると要求も減る。ポジティブメンタルヘルスやウェルビーイングを目指した運動があると、教育行政ももっと健全になる。
- ⑨ 書道や絵画などのコンクールは、子どもに選択させるやり方があってよい。

(8) いじめ・不登校対策に関して

- ① 人間関係づくりでは、学校行事や学級活動を工夫することと、学習支援では、授業を撮影したビデオやインターネットを活用した遠隔授業など、安心して学べる環境があるとよい。
- ② 教員に会いたくない子どももいるので、スクールカウンセラーが単独で家庭を訪問できるよう、また、全校一律に配置するのではなく、必要な学校に必要な人数を配置できるとよい。
- ③ レジリエンスを高める教育が大事。自己肯定感を高めることと、ソーシャルサポートを増やすことが方法として考えられるが、そうしたストレスマネジメント教育や困ったときに助けを求められる教育を、スクールカウンセラーを十分活用し、学級活動などに取入れること。

(9) 特別支援教育に関して

- ① 特別支援学級の担任の免許状保有率が低く、特別なニーズに対応できていない。特別支援学校では、校内委員会が開かれず、初期対応が遅れるケースもあり、免許状や知見を持った教員が管理職になるべき。
- ② 発達障害の可能性のある子どもは通常学級に7%以上いる。特別支援教育の理解と実践力の充実を図るため、担任の研修を拡充すること。
- ③ 特別支援学校には、公認心理士や言語聴覚士、看護師に対するニーズがあり、教育と医療の双方から支援できる教員を配置できるとよい。

(10) 社会教育・生涯学習に関して

- ① 技術や音楽、美術など、実技教員が足りないのであれば、習い事の先生や生涯学習センター等で学んだ人材を活用し、補うこと。
- ② 社会教育主事が各市町の教育委員会に派遣されなくなった。社会教育の充実が地域を作り、学校と連携すればよりよい形で進んでいくが、学校と市町の社会教育部局をつなげないか。

(11) 文化芸術活動に関して

- ① 身近に美術館などの施設がない子どもは、学校以外で文化芸術に触れる機会が少ないので、施設によるアウトリーチ活動を充実すること。
- ② 乳幼児期に本物の文化芸術に触れることが重要。学校の授業時数が減る中、就学前の段階から興味・関心を喚起する機会があるとよい。
- ③ 専門でない教員は、作品をどう見ればよいかの指導が弱い。教員も文化施設で鑑賞教育についての研修を受け、子どもを文化芸術活動に誘う取組が大事。
- ④ 「伝統文化」は人の心の支えになり、人間形成の礎でもある。教養を身に付けるといふ意味合いで親しんでほしい。

(12) 体力・運動能力等に関して

- ① 学校では、投げ方や走り方をしっかりと教えていない。運動能力は幼児期に80%、小学校4年生で90%が決まる。この時期に必要なことは体力でなく、巧緻性やバランス、リズム感である。
- ② スポーツの怪我は95%自然治癒する。残り5%をどうケアするか、子どものスポーツ障害者をどう防ぐかが大事。
- ③ 部活動はやりがいを感じている教員もあり、数を減らす際は工夫が必要。
- ④ 学校単位で部活動を維持することが難しければ、地域単位にしてはどうか。
- ⑤ 部活動には競技スポーツだけでなく、軽く体を動かすだけのレクリエーション・スポーツがあってもよい。
- ⑥ 子どもの頃から栄養バランスを考え、料理する力を養うことが大事。長寿化や高齢化、がんの問題は、将来自分の問題になるという視点で教えること。
- ⑦ 歯の噛み合わせが悪いと集中力も下がり、顎関節症、腰や首の病気などの原因になる。歯の問題は単に健康問題だけでなく、学力や生活の質を上げることにもつながる。